1. 評 価 報 告 概 要 表

［認知症対応型共同生活介護用］

【評価実施概要】

事業所番号	1970200125
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム山梨小原西
所在地	〒　405－0006　山梨小原西641－7 電話番号　0553－21－8220

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2－12号		
訪問調査日	平成19年7月25日	評価確定日	平成19年9月3日

【情報提供票より】平成19年7月10日 事業所記入

（1）組織概要

開設年月日	平成16年5月1日					
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人		
職員数	7人	常勤	6人	非常勤	0人	常勤換算 0人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋　造り		
	2	階建ての	0 ～ 1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	60,000 円		その他の経費（月額）	21,000 円
敷　金	□有（　　）		■無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	■有（200,000） □無		有りの場合 償却の有無	■ 有 □ 無
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 0 円			

（4）利用者の概要　平成19年7月10日 現在

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0	名	要介護2	4	名
要介護3	5	名	要介護4	0	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	83 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	山梨厚生病院・加納岩総合病院・飯島委員・藤原歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日　平成19年8月14日

周辺に畑や住宅地のある静かな環境の中に建っている二階建の2ユニットのホームである。ホームのスタッフ全員が本社の理念をよく理解した上で毎日の目標を掲げて更に支援の向上を目指している。
運営推進会議を通じて積極的な意見交換を行い地域との交流を図っている。利用者はホーム内で各々個性や趣味を活かした生活を送っており、職員はそれに対し熱心な支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の改善点であった「鍵をかけないケアの実践」について、安全性の確保、家族の要望等を踏まえ、施錠・開錠の時間や時間帯を検討中であるが、他の改善点も含め、改善計画は作成されていない。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価及び外部評価の有効性について管理者は理解している。今年度の自己評価は、新しい評価項目となったこともあり、管理者が単独で取り組んだ。前年度のサービス評価における改善点については、職員会議等で話し合っているが、改善計画は作成されていない。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は3ヶ月に1回のペースで開催している。話し合いの内容も、ホームからの一方的な報告にとどまらず、推進会議のメンバーからの質問やホームと地域との関わり方（アピールの方法）などについて積極的な話し合いが行われ、ホームの現状の理解、ホーム便りの配布など地域へ積極的な関わりが実践されている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

意見箱の設置や相談・苦情窓口の明確化は図られている。利用者のご家族へも、気軽に相談して欲しい旨を折を見て働きかけている。また、年1回ではあるが、無記名式のアンケートを家族等へ配付し、意見や苦情などの把握に努めている。ただし、ホーム職員の異動について利用者のご家族には報告がないため、その異動を残念に思う家族もいる。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域の河川清掃等へ積極的に参加し地域のお付き合いを大切にしている。また、近所の幼稚園とは相互に交流も盛んであり、さらに近隣の中学校の職業体験なども受け入れ、ホームの機能を地域へ還元する中で地域住民との交流を行っている。

2. 調 査 報 告 書

事業所名: 愛の家グループホーム山梨小原西

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本社の理念をホームの理念として掲げているが、毎月ホームの独自の理念を設定し努力目標としている。　運営推進会議を通じホームの存在と役割を地域に啓発している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアーに理念が掲示してあり、リビングには今月の努力目標としての理念がわかりやすく掲示されている。朝のミーティングで管理者と職員が理念の唱和を行い共有を図っている。職員はそれを基に利用者が地域住民として生活できるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の河川清掃等へ積極的に参加し、地域のお付き合いを大切にしている。また、近所の幼稚園とは相互に交流も盛んであり、さらに近隣の中学校の職業体験なども受け入れ、ホームの機能を地域へ還元する中で地域住民との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の有効性について管理者は理解している。今年度の自己評価は、新しい評価項目となったこともあり、管理者が単独で取り組んだ。前年度のサービス評価における改善点については、職員会議等で話し合っているが、改善計画は作成されていない。	○	自己評価への取り組みは、ホームスタッフ全員で取り組み、課題や問題点などを共有して欲しい。また、改善点として明らかになった事柄については、改善計画を立て、計画的な取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回のペースで開催している。話し合いの内容も、ホームからの一方的な報告にとどまらず、推進会議のメンバーからの質問やホームと地域との関わり方（アピールの方法）などについて積極的な話し合いが行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議において、市（行政）の担当者等と関わる中で、各種相談はしやすい関係にあるが、利用者の地域での日常の暮らしを支援する関係団体等との関わりは少ない。	○	利用者の日常生活の幅がより広がるよう、市町村社会福祉協議会や市内のボランティア団体等も含め、相互の連携や関係を深める中で、グループホームの社会的信頼をさらに高め、利用者へのサービスの質の向上取り組んでほしい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常での様子や金銭管理については定期的に報告している。また、職員の異動が目立つが、その異動については家族には報告がなされていなかった。職員の異動を突然知った家族の中にはその異動を残念に思う家族もいる。	○	これまでの定期的な報告に加え、利用者のご家族等が知りたい情報等を把握する中で、個々に合わせた情報提供（報告等）ができるよう、その取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や相談・苦情窓口の明確化は図られている。利用者のご家族へも、気軽に相談して欲しい旨を折を見て働きかけている。また、年1回ではあるが、無記名式のアンケートを家族等へ配付し、意見や苦情などの把握に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の様子を見極めながら、利用者へ早めに異動について伝えたり、また、必要に応じて新任職員を早めに配置し、利用者の精神面や心理面への配慮が行われている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、フロアリーダーは本社研修・リーダー研修に参加し研修内容を全職員に伝えている。毎週土曜日は全職員でホーム内研修を実施している。初任者研修は1ヶ月の研修期間を設けている。また、各種資格取得にはホームより助成もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会へ加盟し、定期的な交流や情報交換は行われている。また、市内のグループホームとのネットワークづくりについて、現在、検討、模索中である。	○	市内におけるグループホームとのネットワークづくりは、地域密着型サービスであるグループホームには大切である。グループホームや小規模多機能型事業所も含め、ネットワークの構築の実現に期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前にホームの見学、体験入居をしてもらい家族・利用者に納得の上で入居してもらっている。又、必要に応じスタッフが家庭訪問を行い、馴染みの関係づくりをしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に言葉遣い、態度に注意を払い、利用者の方々を人生の先輩として、また利用者から学ぶという姿勢で支援をし、日々の楽しみごとも利用者と共に楽しんでいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の趣味・関心事・食べ物の好みなどを把握し、思いや希望を叶えるように努力している。個人の希望外出にも可能なかぎり職員が付添って外出している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居時、家族や関係機関と相談しながらアセスメントに基づいた介護計画を作成し短期・長期の介護目標を立てている。毎月1回のカンファレンスで個々の介護計画の課題を全職員で検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画の見直しを行っているが、状況に応じて、ケアカンファレンスを行い、その都度見直しを行っている。日々の細かい変化は申し送りノートで職員に伝えている。介護計画見直しの際は家族の了解を得て確認印を得ている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現状のスタッフ、スペースでは通所、ショートステイ、ホームヘルプ等のサービスは不可能であるが、認知症介護の家族の相談に のったり、地域の認知症予防教室への講師の派遣も考えている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により往診医の紹介を行っている。 かかりつけ医への通院は原則家族対応で行ってもらっているが、不可能な場合は職員が付き添い通院している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時家族と話し合ってはいるがホームとして対応できないケースもあり、具体的な取り決めはしていない。今後は訪問看護師と相談の上、利用者や家族の希望に対応できるようにしたいと考えている。		
１．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中で、態度やことばに慣れが生じやすいので常に職員間で注意し合っている。特に排泄時のことばかけ、態度には気を付けている。個人記録はプライバシーに考慮した保管がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての大まかな生活の一日の流れは決まっているが、その日の利用者の状況や希望により利用者のペースや希望に合わせるよう努力している。又、自分の意志を示さない方の意向を汲みとるよう心がけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは本社のものを利用しているが利用者の好みや地域の食材を取り入れる工夫をしている。ご飯、みそ汁は利用者が作っているが、主な調理は調理スタッフが行っている。	○	食事の準備・調理・後片付けは利用者の力を発揮できる場面として取り組みを期待したい。8月より、利用者が調理に加わる取り組みが実施される予定である。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほとんどの利用者が見守りや介助が必要なため、午後2:45～夕食前までと入浴時間が設定されているが、利用者の希望や失禁時には随時入浴可能である。今後、家族同伴で温泉入浴も検討中である。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、掃除、洗濯などの家事、植木の世話、絵画制作、展示、資格検定など趣味への協力や買い物の付添いなど個々の役割、楽しみごとへの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、月2回以上の買い物、月1回の外食の他、地域の朝市やおまつりへの参加、利用者の希望により外出の機会を持つようにしている。また、個人の外出にも可能なかぎり職員が付添う支援をしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価での要改善点であったが、見当識に問題がある方がいるため玄関の開錠はしていない。又居室の窓も全開できない。スタッフ全員が今後の課題として受け止めている。	○	利用者の所在確認の方法として全職員の配置の工夫、近隣住民への協力依頼など利用者の安全を確保した上で玄関の開錠、居室の窓の開放を検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導で避難訓練をしているが、地域住民への協力依頼については現在思案中である。災害時の連絡網・マニュアルはあるが全職員が救急法をマスターしていないので夜間不安に感じている。	○	運営推進会議で提案するなどして、地域住民と合同で災害訓練等の実施に期待したい。又、全職員の救急法の講習を実施することで夜間緊急時に備えてほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、水分量など、食事の度に個々に細かくチェックリストに記入している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は充分な広さがあり、陽当り、風通しもよく不快な匂いもない。リビング、廊下、テラスに入居者が思い思いに過ごせる居場所が設けてある。利用者の作品がリビングや廊下に飾ってあり、利用者の育てた草花も置いてあり季節感も感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具類、趣味の道具等は利用者が使いなれたものを持ち込んでいる。各居室にはエアコンが設置されており、利用者に合わせた温度設定がされている。		